

原子力機構 燃料研究棟汚染事故に係る対応（日報）

7月11日（火） 日報【実績】	内 容
現場復旧対応	<p>○108号室の安全確保のための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月7日に実施していたスミヤろ紙等の運搬準備作業中に、燃料研究棟廊下において軽微な汚染が確認されたことから、グリーンハウスの更新を優先する等、燃料研究棟における汚染管理の強化を行うこととしております。これにより、貯蔵容器の移動に係る作業について、計画の見直しを行っています。 <p>※ 作業内容の詳細は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ フード（H-1）内貯蔵容器の運搬作業 https://www.jaea.go.jp/04/o-arai/information/2017/070602.pdf ➤ 燃料研究棟にて採取したスミヤろ紙等の運搬準備及び運搬作業 https://www.jaea.go.jp/04/o-arai/information/2017/070603.pdf ➤ 燃料研究棟にて採取したスミヤろ紙等の施設内搬入・核種分析作業 https://www.jaea.go.jp/04/o-arai/information/2017/070604.pdf をご参照ください。 <p>・108号室全体を除染するための作業内容等を検討中です。</p>
原因究明対応	<p>○内容物の同定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貯蔵容器80個分の帳票類の履歴調査を継続中です。 <p>○破裂メカニズム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・樹脂製の袋の破裂現象に関して、放射線（ガンマ線）照射により劣化させた袋にガスを注入し、貯蔵容器の蓋を開けた際の状況を模擬する実験を開始しました。 ・核燃料物質と混合したエポキシ樹脂の放射線（アルファ線）分解によるガス発生現象に関して、分解による樹脂の重量減少と密閉状態での内圧変化の測定を継続中です。

	<ul style="list-style-type: none"> ・エポキシ樹脂の放射線（アルファ線）分解で発生するガスの種類と量を調べるため、アルファ線を模擬したヘリウムイオン照射とこれにより発生するガスの分析を行い、得られたデータを解析中です。
<p>その他 （総点検・水平展開、 被ばく評価対応な ど）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○核燃料物質の貯蔵等に係る総点検 <ul style="list-style-type: none"> ・各拠点における総点検（貯蔵中の核燃料物質の管理状況、貯蔵容器等の取扱い作業に関する管理状況の確認等）を実施中です（6/15～）。 ○被ばく評価（バイオアッセイ協力、外部被ばく評価） <ul style="list-style-type: none"> ・外部被ばく線量の評価を継続中です。 ○外部対応 <ul style="list-style-type: none"> ・原子力規制庁と定例面談を行いました。